

広報 すぎなみ

Suginami



みどり豊かな 住まいのみやこ

{ 7/15 }
令和5年(2023年)
No.2357

ヒロシマのあの日の
記憶を未来につなぐ。

終戦から78年。戦争を経験した世代が高齢化し、昨今では歴史の風化が懸念される中、被爆体験を子どもたちに語り、平和の尊さを伝える活動を続けているのが、区内在住の原爆被爆者の会「杉並光友会」。証言者の一人として小中学校で語り部を務める西尾睦子さんに、自身の体験と平和への願いを伺いました。



特集

人
すぎなみピト

西尾睦子

杉並光友会(原爆被爆者の会)

撮影協力：高井戸小学校

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課



「広報すぎなみ」は月2回(1・15日)発行。新聞折り込みでの配布のほか、区施設・区内各駅などの広報スタンドに置いています。入手が困難な方には個別配布をしています。ご希望の方は、電話・ファクス・Eメール・LoGoフォームからお申し込みください。

詳細は、区ホームページ(右2次元コード)をご覧ください。



世界で3回目の原爆投下は絶対にならない。そう信じて体験を伝え続けたい

「いい子だね」と頭をなでた父は、原爆で帰らぬ人に

—西尾さんは、幼少期を太平洋戦争の最中に過ごされていますね。
私の実家は広島市大手町。原爆ドームから1.5kmほどの場所です。私が1歳のときに開戦しましたが、しばらくは戦争の厳しさを実感することはありませんでした。ラジオが繰り返し伝えてくるのは「日本は勝っている」ということ。ちょうちん行列をしたり、出征する兵隊さんに「万歳！」と言いながら幼い私も旗を振った記憶があります。

—その後、戦争が身近に迫ってきたと感じたのは？
広島市内で空襲が始まってからです。アメリカの爆撃機B29が近づき警戒警報のサイレンが鳴ると、警報が解除されるまでとても怖かった。いつでも逃げられるように服を着たまま寝た日もあります。やがて空襲が激しくなると、火が広がらないようにと「建物疎開」の命令が出て、私の家も取り壊されたので、郊外へ疎開することになりました。父は市内で勤めていたので、市内に残り借家で暮らしていました。



写真左：父の膝に座る西尾さんと姉 写真右：家族写真（父・母・姉・弟・叔母）

—昭和20年8月6日、原爆が投下された当日の状況をお聞かせください。
その日は月曜日。快晴の朝でした。4歳の私は鏡台の前に座り、母に髪の毛を切ってもらっていました。すると突然閃光が走って、しばらくして「ドン」と大きな音が鳴り響き、目の前の鏡が飛んだことを覚えています。母は「すぐ隣に爆弾が落ちた」と言って慌てて外へ飛び出していきました。母が出ていってしまったのでぼんやりしていたら、突然大粒の黒い雨が降ってきました。雨がどうして黒いのか不思議でした。後で知りましたが、放射能を含んだちりやほこりだったのです。

—原爆が投下されたとき分かったときのことは覚えていますか？
夕方になると、隣の家のおじいさんは亡くなって大八車（木でできた人力荷車）に乗せられて、おばあさんは顔にひどいやけどを負って、市内から戻ってきました。その様子を見て近所の人たちも何が起きたのか、少しずつ分かっていきました。市内が大変なことになっているようだ、と。明るくておしゃべりだった隣の家のおばあさんが、暗い顔で静かに座り込んでいた姿は今でも忘れられません。

—西尾さんの家族はどのような状況にありましたか？
前日の8月5日が日曜日だったので、父は祖母を連れて私たちの家に来ており、お昼と一緒に食べました。母がなげなしのお米を炊いたのでしょ。とてもおいしかったことをよく覚えています。父の帰り際、「泊まっていた」と母は父に言ったけれど、やはり仕事があるからと市内に戻って行きました。父は「いい子だね」と私の頭をなでてくれて、帰っていく姿をみんなで見送ったのを覚えています。ですから原爆が投下された後、母は市内にい

るはずの父をととても心配して、一人で捜しに出かけていきました。

—お母さんはどのような様子で帰宅されたのでしょうか？
2日間父を捜し続け、お骨と父を特定する手掛かりとなった懐中時計だけ持って帰ってきました。凄惨な死体でいっぱいの中を捜し回った母は、戻ってくるともう、生きている人のように見えませんでした。怖くて近寄ることもできませんでした。想像もできないほどの惨状を目の前にすると、人は何が起きているのかわからなくなり、涙も出なくなるのでしょうか。その母の姿に大きなショックを受けて、私はその後の半年間の記憶が抜け落ちています。ですから、終戦をどう迎えたのか、玉音放送を聞いたことも覚えていません。おそらく自分自身で、自分の心を封じ込めたのだと思います。

証言者になり、思い出すことのなかった記憶に向き合って

—終戦を迎えた後、家族はどう暮らしを立て直していったのですか？
私は父だけでなく、祖父も叔母もいとも原爆で失いました。戦後の暮らしについては、とても言葉では語り尽くせないものがあります。母は元々のんびりとした性格で父をととても頼りにしていましたから、父を失い生きていくのは本当につらかったでしょう。それでも、実家のあった大手町に狭い小さな家を建てて、店を始めました。母はたびたび夜なべをしていて、寝る間もなかったのではないかと思います。私自身、そんな母を助けなければという思いを長い間抱えていました。

—杉並光友会に加入したきっかけをお聞かせください。
私が杉並光友会に加入したのは70歳を過ぎてからです。それまでは、被爆体験を思い出すことはありませんでした。戦後はずっと広島で暮らしてきましたが、夫の転勤で各地を経て杉並の久我山に暮らすようになり、杉並光友会の方に「一緒に活動しませんか」と声をかけてもらったことが加入のきっかけです。当時は、証言者としてではなく事務局の仕事を担当したことで活動を始めました。



人
すぎなみビト
interview
西尾 睦子
杉並光友会(原爆被爆者の会)

西尾睦子（にしお・むつこ）昭和15年、広島県広島市生まれ。5歳の誕生日を一月後に控えた昭和20年8月6日、広島市郊外で被爆。原爆によって父・祖父・叔母・いとこを失う。広島に長く暮らした後、各地を経て杉並区久我山へ。平成25年より原爆被爆者の会「杉並光友会」で活動を始める。現在は証言者の一人として区内の小中学校で被爆体験を語る出前授業に取り組んでいる。

—証言者として活動するようになったのはなぜですか？
証言者の高齢化が進み、証言をできる人が減ってきてしまったことが理由にあります。私自身、敗戦の翌月で5歳でしたから、4歳までの記憶しかありません。それらも断片的でなかなかつながっておらず、証言をできるとは思ってもいませんでした。それでも杉並光友会の先輩方に助けていただきながら、自分の記憶も少しずつ掘り起こしていき、6年ほど前から区内の小中学校で出前授業として被爆体験を語り続けています。

—子どもたちに78年前の出来事を伝える難しさは感じますか？
子どもたちが聞いて理解できる言葉を選んだり、たくさんの情報の中から何を話すかと伝わりやすいか考えたり、いまだに模索しています。昔、母が私や弟の子どもたちに対して、「今日はおばあちゃんから戦争の体験を話します」と被爆体験を聞かされたことがあったんです。包み隠さず惨状を話したことが子どもたちにはとてもショックだったようで、「あれは怖かった」と今でも娘に言われます。そんなこともあり、伝えることの難しさはいつも感じています。

—授業後の子どもたちの反応で、特に印象深かったものを教えてください。
いつも授業の後に何人かの子が質問してくれるのですが、あるとき「広島市の平和記念資料館へ行ったことがありますか？」と聞いてくれた子がいました。実は、私は平和記念資料館に今でも入れないでいるんです。あまりにたくさん家族を一度に失いましたから、どうしても直視できなくて。でも、今度広島に帰ったら必ず勇気を出して行ってみようと思っています。質問してくれた子と、約束したこともありますから。

被爆者が高齢化する中で見据えるべき未来

—今も世界では戦争が続き、核兵器廃絶にも届かない現実があります。
5月にG7広島サミットが開催され、原爆死没者慰霊碑に各国の首脳が花をささげるシーンをたくさんの方が報道で目にしたと思います。あの場所



は原爆が投下されたとき、たくさんの中1年生が建物疎開の片付けをしていて命を失った場所です。彼らの平和を願う声が届いたでしょうか。杉並区は昭和63年に「平和都市宣言」を行い、その中で核兵器廃絶も唱えています。核兵器禁止条約の批准国は今68カ国*。もっと批准国が増えていかなければ核兵器廃絶は進みません。※令和5年6月現在。

—被爆者として、西尾さんが未来に願う平和への思いとは？

杉並光友会は証言者の高齢化が進み、証言をできる人が年々減っています。同様の現象は広島でも起きていて、記憶を語り継ぐための取り組みがさまざまに始まっています。それらを参考にしながら、私たち杉並光友会も証言を未来につないでいきたいです。今もしも原子爆弾が使われたら、広島・長崎に投下されたものと比べて、威力が三千倍にもなるといわれています。世界で3回目の原爆投下は絶対にならない。そう信じて、今後も活動に取り組んでいきたいです。

平和展
—
あの日、ヒロシマで
ヒロシマを生きた女学生運転士と軍医の話
さすらいのカナブ著「あの日、ヒロシマで」のイラストや写真、関連図書などから、広島の実態を伝える展示を行います。
8月4日(金)～9月6日(水)午前9時～午後8時(8月17日を除く。日曜日、祝日は午後5時まで)
中央図書館(荻窪3-40-23) 区民生活部管理課平和事業担当
平和のためのポスターコンクールの作品を募集します。詳細は、8面へ

YouTubeで配信中!
すぎなみビト MOVIE
すぎなみビト「西尾睦子さん」のインタビュー動画を、右2次元コードからご覧いただけます。
杉並区公式チャンネル